

編集後記

数誌の編集委員を担当させて戴いているが、その編集委員会でよく話題に挙がるのが二重投稿の問題である。日本では double publication と呼んでいるが、duplicate publication が正しいようだ。1997年の International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) による “Uniform Reulements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals” の第 5 版では “Redundant or Duplicate Publication” と表現されている。この ICMJE は 1978 年に British Columbia の Vancouver で医学投稿論文のガイドラインを作成するために集まったグループが拡大・発展したものであり、現在は Index Medicus, British Medical Journal, Lancet, Journal of the American Medical Association など 11 学術雑誌の 11 編集長で構成されているという。したがって、この ICMJE によるガイドラインは医学投稿論文のバイブルと言っても過言ではないと思われる。これによると、“Redundant or Duplicate Publication” とは、既に出版された論文と大体はオーバーラップしているものと定義されている。これは本邦での認識とほぼ同じであると思われるが、残念ながら、どの程度のオーバーラップかは具体的に示されていない。しかしながら、“Acceptable Secondary Publication” という概念が認められている。同じまたは他の言語で、特に他の国において（英語圏の国以外を差すものと思われる）一定の条件が満たされるなら、secondary publication は正当と認められるとされている。紙面の都合上、この一定の条件をここで述べることはできないが、興味のある方は原著（The New England Journal of Medicine. 23: 309. 1997）を読むことをお勧めする。本邦でも二重投稿は認めないというだけでなく、一定の条件が満たされている “Acceptable Secondary Publication” という概念は取り入れても良いように思われる。

（畠山勝義）